

環境

企業活動における「環境」対策は、CSR(企業の社会的責任)の観点からも経営上の最重要課題の一つとされる。日立グループでは、新時代に即したサービスメニューとして、企業が「環境」への負荷低減を実践していくうえで有効となる「人工ゼオライト化事業」や「環境経営支援システム」などの最新の環境ソリューションを、ユーザーの視点に立って提供している。

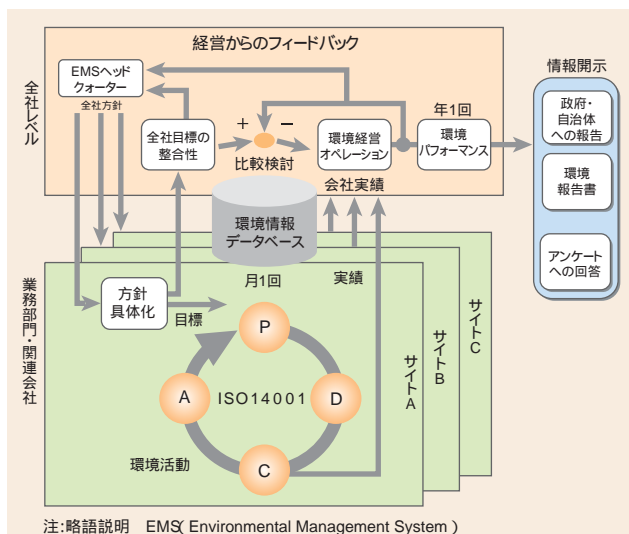
焼却灰人工ゼオライト化事業

日立グループは中部電力株式会社とともに、従来埋め立て処分していた石炭灰を高品質の人工ゼオライト(シリカ・アルミナを主成分とする多孔質無機化合物)として量産する技術を開発し、さらに生産した人工ゼオライトの再利用を推進している。人工ゼオライトは、安定した高い吸着・イオン交換・触媒機能を有するため、重金属や悪臭ガスの吸着、土壌改良剤など、活性炭の代替などとして利用市場の拡大が期待されている。例えば、日立アプライアンス株式会社では、人工ゼオライトフィルタを使用し99%の脱臭率を達成した空気清浄機を開発し、販売している。また、日立設備エンジニアリング株式会社は、ベンチャー企業との技術提携により、2005年12月には十王事業所敷地内(日立市)に実験プラントを建設し、製紙スラッジや廃珪(けい)藻土などを原料として試験を実施し、利用分野の拡大を図っている。日立グループは今後もこのような資源循環を産学官の連携の下で推進し、地域特性に合った循環型社会システムの構築に貢献していく所存である。



中部電力株式会社の碧南火力発電所に納入した人工ゼオライト製造プラント(生産能力:3,000 t/年)の外観(a)、建屋内(b)、および粉末ゼオライト(c)

環境経営を支援する環境情報収集システム「EcoAssist-Enterprise」



環境情報統合システムへの進化

企業経営においては、環境に関して積極的に取り組み、環境負荷を低減することで社会的責任を果たすことが求められている。エネルギー管理、化学物質管理、廃棄物管理、さらには順法管理など、企業が必要とする環境データは増加する一方である。

日立環境情報収集システム「EcoAssist-Enterprise」は、企業経営に必要な環境情報を一元管理し、どんな切り口の用途にも迅速に対応できる。組織変更、法改正にも柔軟に対応できる点が特長である。また、グループ会社、工場などのサイトとEMSヘッドクォーター間のコミュニケーションが密になり、PDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルが有効に回るメリットがある。

今後は、日立グループの各種省エネルギー設備、監視装置との組み合わせ、排出権取引システムとの連携を視野に入れ、環境・省エネルギーのトータルソリューションとして提案を進めていく。